

ニューカッスル大学への派遣

T・K

今回 2/27～3/9 の期間でニューカッスル大学への派遣プログラムに参加した。

ニューカッスル大学は横浜国立大学と似て自然豊かな立地となっており、市内からのアクセスは電車で約 15 分であった。派遣中は GICAN(Global Innovative Centre for Advanced Nanomaterials)の Ajayan Vinu 教授の研究室にお邪魔した。この研究室ではエネルギー・環境・健康分野にわたるさまざまな用途のためのナノ構造体の開発を行っている。ここに所属する学生は博士やポスドクで、インドや中国出身の学生が 9 割を占めていた。

派遣先では研究室の学生とのコミュニケーションを積極的にとった。今回のプログラムではインダストリアルツアーなどの学外での活動はなかったので、派遣中ほとんどを研究室内で過ごした。午前中は GICAN の研究に関する論文を読み、午後は論文に関する質問をしたり実際に実験を行っている様子を見学したりした。他にもラボツアー・キャンパスツアー・研究室内の講義の参加・他の研究室の見学などを行った。また昼休憩の際も大学内のカフェテリアや、彼らが所有している車で近くのショッピングモールまで行き昼食を一緒に食べた。インドの学生の中には日本の食事や文化に興味を持っている方もいて、日本語やアニメなどの話は大いに盛り上がった。

また週末にはニューカッスル市内やシドニーの観光に行った。シドニーには電車を使ってニューカッスルから 3 時間ほどで行くことができ、オペラハウス、ハーバーブリッジなど街のアイコンといえる場所を回った。ニューカッスル市内の観光では博物館や大聖堂、ビーチなどを訪れた。博物館ではニューカッスル市の歴史について学ぶことができた。

生活面については今回ホテルでの滞在であり、特に不自由なことはなかった。ただ物価に関しては日本に比べてかなり高かった。例えば近くのスーパーで水 500ml が 2.5 ドル (225 円) もしたり、大学内のカフェのメニューも 15 ドル (1350 円) を超えるものがほとんどだった (量はかなり多かったが)。また環境への配慮か水不足のためか使用したタオルは所定の場所に置かなければ交換されない仕様となっていた。

今回の派遣では 10 日間という短い期間であったが、オーストラリアの生活や文化に触れることができたと思う。また将来海外での研究・開発に携わりたい私にとって、研究室で英語を用いながら化学に触れたことは将来の自分をイメージアップするいい機会となった。



Nobbys Beach & Lighthouse